

第 330 回 昭和の森自然観察会

水辺の植物のひみつをさぐろう

須田 聡恵（千葉市）

日 時：2019 年 6 月 9 日（日）13 時～15 時 天気：曇り
参加者：9 名（大人 8 名、子ども 1 名）他 1 名 指導員 5 名
担当指導員：佐野由輝・須田聡恵

木曜日から梅雨入りし、天気予報が気になった当日。朝から霧雨、午後 3 時から雨の予報。去年は雨の為中止だったので、何とかやりたい！参加者がいるか心配したが、9 名おり、元気にスタート。初めに用意した水槽やバケツの植物を前にして「水辺の植物」についてのガイダンス。【長い進化の過程で植物は海で誕生し、陸に上がり、陸上生活に適応しながら、再び水中生活に戻っていった植物が水生植物であること。次に、拡大資料を使って項目ごとにみると、A.生活スタイルでは、①水に浮いているものと水中に根のあるもの（②水中でくらす沈水植物。③葉を水面に浮かべる浮葉植物。④岸の近くでくらす抽水植物）の四種類になる。B.深さによる水草のすみわけは図参照。】C.体の特徴が本日のテーマ。水中で暮らすデメリットをどう克服しているかを実際に観るために観察地へ移動。坂を下り木々の間からハナショウブが見え始めるとそこが谷津田。水源に近い池にはヨシの群落、その中にヒメガマやショウブが生えている。更に、花菖蒲園を下るとビオトープの田んぼ、そして、スイレンがたくさん咲いている下谷田池へと続く谷津田。観察ポイントは 3 つ。1、抽水植物のヨシとガマの葉・茎・根を手に取り、カッターナイフで切断して、根に酸素を送り込むための大きなたくさんの空洞を確認。ガマの茎の空洞は大きかった。2、浮遊植物のウキクサの根やホテイアオイの浮袋の解剖。3、池では浮葉植物のスイレンを見ながら、市の花のハスの葉の形・つくり、花、葉柄、茎など比べながら違いなど見つけた。又空気を送り込んで葉の表面の気孔も確認。参加者が少なかったので、たくさんのかたを話しながら、ゆっくり、じっくり、楽しみながら観察したので時間が足りない程で、これもまたヨシでした。



オオフサモの観察



切った茎や葉の断面を黒い紙に置く

<皆さんの感想>

- ・茎など切って観たのが楽しかった。 ・浮かぶ原理が、実際に観て良く分かった。
- ・普段何気なく散歩していたが、いろんなことが分かり、歩くのが楽しくなりそう。
- ・葦など水生植物が水の浄化をしていることが分かった。 ・ハスとスイレンの違いが良かった。
- ・植物の仕組みや構造が、生活用具などに生かされていることが面白いと思った。

（ハスの葉の凸凹⇒しゃもじ・某社のヨーグルトの蓋・焦げ付かないアルミホイル ガマの葉のハムカミ構造⇒飛行機の羽の骨組み）